

simc News Letter

Sendai International Music Competition

2026年 6月号

仙台国際音楽コンクールニュースレター

第9回仙台国際音楽コンクール最高位受賞記念 ムン・ボハ ヴァイオリンリサイタル演奏評
正木 裕美 (音楽ジャーナリスト)



日時：2026年5月24日(日) 14:00 開演
会場：日立システムズホール仙台 コンサートホール
ヴァイオリン：ムン・ボハ ピアノ：小澤佳永

【演奏曲目】

ブラームス：F.A.E. ソナタ 第3楽章 スケルツォ
イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第4番 ホ短調 op.27-4
ドヴォルザーク (クライスラー編曲)：
スラヴ舞曲 第2番 ホ短調 op.72-2
クライスラー：ウィーン風狂想的幻想曲
シューベルト：幻想曲 ハ長調 D934
ヴィエニャフスキ：「ファウスト」の主題による幻想曲 op.20
アンコール パク・ジョンギユ編曲：Furusato/Spring in My Hometown

第9回仙台国際音楽コンクール ヴァイオリン部門で最高位を受賞したムン・ボハが、コンクール以来初となる仙台でのリサイタルを開いた。曲目は上記のとおり、ブラームスのF.A.E.ソナタのスケルツォに始まり、イザイの無伴奏ヴァイオリン・ソナタ第4番やクライスラーのウィーン風狂想的幻想曲ほか全6曲(ピアノ：小澤佳永)。「ロマン派時代のヴァイオリンが持つ多面的な魅力を描き出したいと考えた(プログラム誌より)」という、持ち味である豊かな音色や表現が生きるプログラムだ。

「コンクールは通過点」とはよく言われるが、のちの公演ではコンクールの重圧から解き放たれて従来の資質がより露わになるのみならず、その後の研鑽の跡を知ることができる。もともと美しい響きとそこに秘める抒情性は抜きん出ているが、ブラームスのスケルツォでは音の厚みがさらに増し、キレの良い推進力を両立させて著しい進境を聴かせた。さらにイザイの無伴奏ソナタ第4番は、第1楽章中間部で静かに旋律のひだに情感を寄り添わせ、重音から細かなパッセージまでの確に弦を捉える技術力の高さが、第3楽章他そこかしこで光る。それでいて技術力を披歴するような自我の表出や癖もなく、作品に真摯に寄り添い、ひたすら本質を紡ぎ出す姿勢に好印象を持った。

前半の最後、ウィーン風狂想的幻想曲は本人がとりわけ愛する作品としてプログラムに組み込まれた。重音による和声的な旋律やワルツのリズムにウィーン風の郷愁を伴うロマン的な作品で、作曲者クライスラー自身による管弦楽版の録音も遺されている。ソナタや協奏曲のような構造の枠組みなく自由に奏でられる、ある意味音色やセンスが問われる作品でもある。「自分が出しうる最も芳醇な響きを見つけ出すことに心血を注ぎました(プログラム誌より)」というだけあって、ムンは艶やかに幾つもの音色を使い分けて聴き手を魅了。作為的でなくのびやかに伸縮するそのワルツからは、彼女のこの作品への想いが伝わってきた。

こうした多彩な音色の使い分けは彼女の特筆すべき美点のひとつで、コンクールの時から一貫して擦弦の際に不快な音が生じることもない。それだけ自身が奏でる音に耳を傾け、そのための研鑽を怠らないのだろう。後半のシューベルトの幻想曲はソナタや変奏的な形式に技巧的要素がさり気なく散りばめられた美しき難曲とも言えるが、高音は気持ち良く抜け、細かなパッセージ等難なく弾きこなし、前曲同様多彩な音色変化で瞬時に楽想を歌い分けた。最後のヴィエニャフスキの「ファウスト」の主題による幻想曲でも同じく、フラジオレットを伴う速いパッセージでも難なく軽妙さを表現し、



粒立った音色を奏でる。重音でも 2 声を独立して歌い分け、作品の美しさを決して損なうことがなかった。要するに技術的に高い次元で奏でられるわけだが、彼女の良さは技巧それ自体を披歴するものとせず、表現の手段として捉えている点にある。そのため技巧的な作品を弾いても技術的要素によって内容がぶつ切りにならず、音楽の構成を見据えてゆったりと歌い上げることができるのだろう。コンクールではファイナルのブルッフのスコットランド幻想曲でその美点を聴かせていたが、今回の公演ではさらに洗練され、一段と技術的にも磨かれた印象を持った。

実はコンクールの予選やセミファイナルでは度々音を外してしまい、徐々に調子が上がってファイナルで持ち味を発揮した感もあった。今回、公演の締め括りで当時のことを「ナーバスだった」と語っていたが、やはりコンクールという場の重圧もあったのだろう。しかしこの 1 年での如実な深化は、それを除いても真摯に自身や作品に向き合ってきた証左ではないだろうか。実際、この 6 月には日本フィルハーモニー交響楽団でボリス・ベルキンに代わりソリストを務めるなど、徐々に活躍の場も広がりつつある。

アンコールには友人の手による日本と韓国それぞれの“ふるさと” — 「故郷」 「Spring in My Hometown (故郷の春)」を織り交ぜた作品で、仙台の聴き手へ謝意を表したムン・ボハ。その愛すべき彼女の活躍に、今後も期待したい。

第9回仙台国際音楽コンクール公式CD販売中!

ムン・ボハ ヴァイオリン部門最高位



第9回仙台国際音楽コンクール ライヴCD FOCD9927

〔収録曲〕ブルッフ:スコットランド幻想曲 op.46
ドヴォルザーク:ヴァイオリン協奏曲 イ短調 op.53
モーツァルト:カッサシオント長調 K63からV.アダージョ
〔指揮〕広上 淳一
〔管弦楽〕仙台フィルハーモニー管弦楽団

第9回仙台国際音楽コンクール最高位受賞記念CD FOCD9934

〔収録曲〕ダラピッコラ:タルティニアーナ 第2番
グリーグ:ヴァイオリン・ソナタ 第2番ト長調 op.13
シューベルト:幻想曲 八長調 D934
ヴィエニャフスキ:「ファウスト」の主題による幻想曲 op.20
〔ピアノ〕チェルシー・ワン



エリザヴェータ・ウクラインスカヤ ピアノ部門優勝



第9回仙台国際音楽コンクール ライヴCD FOCD9928

〔収録曲〕モーツァルト:ピアノ協奏曲 八長調 K467
チャイコフスキー:ピアノ協奏曲 第1番 変ロ短調 op.23
〔指揮〕高関 健
〔管弦楽〕仙台フィルハーモニー管弦楽団

第9回仙台国際音楽コンクール優勝記念CD FOCD9935

〔収録曲〕ラモー:新クラヴサン曲集(1726/27)組曲ト調より「雌鶏」、「エジプトの女」、「未開人」
モーツァルト:グルックの歌劇「メッカの巡礼」の「愚民の思うは」による10の変奏曲 K455
ブラームス:16のワルツ op.39
プロコフィエフ:「シンデレラ」からの10の小品 op.97
リスト:スペイン狂詩曲 S254

